

## 1 取組の概要及び成果等

### (1) 取組の概要

- ① ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動
  - ・クリーン作戦：異年齢集団（毎学期1回学校周辺の通学路やりりんロードの清掃）
- ② 自然に関わる体験活動
  - ・加波山登山：5，6年生（地域コミュニティースクールとの連携事業）
  - ・学年花壇の栽培：全学年（花の苗植え，除草，管理等）
- ③ 勤労生産に関わる体験活動
  - ・稲作：5年生（地域の方を講師に迎えて田植え，除草，稲刈り，収穫祭）
  - ・ジャガイモ栽培：6年生（学校の畑を利用し，苗植え，除草，収穫等）
- ④ 交流に関わる体験活動
  - ・ワールドキャラバン：6年生（スリランカ，モンゴル，ガーナの方を講師に迎えて話を聞く  
異国文化を体験）
  - ・秋を楽しむ集会，芋煮会：全学年（地域コミュニティースクールとの連携事業）
- ⑤ その他の体験活動
  - ・福祉体験：4年生以上（障害のある方を講師に招聘しての手話体験）

### (2) 特に工夫や配慮をした事項

#### ① クリーン作戦

毎学期1回，学校周辺の通学路やりりんロードの清掃を異年齢集団（ポプラ班）で実施した。保護者や地域の方にも呼びかけ，参加を促した。事後に，各学級でミニ作文にしたり，学校・学年だよりで保護者や地域の方へ紹介したりした。

#### ② 加波山登山

青少年育成市民会議主宰の地域コミュニティースクールと学校行事との連携事業として実施した。コミュニティースクール実行委員，生涯学習課職員，保護者等の支援で，豊かな自然体験ができた。山頂では，加波山事件についての話を聞いたあと，地域女性の会の方が作ってくれたカレーライスを食べた。事後に，学校・学年だよりの他，コミュニティースクール実行委員会やコミュニティースクール参加チラシで活動状況を報告した。

#### ③ 稲作

総合的な学習の時間において，テーマ「米作りについて調べよう」のもと，体験活動と併行して調査活動を進めた。田植えや稲刈りなどの体験活動が，児童にとって豊かなものとなるように，ゲストティーチャー（地域の方）と綿密な事前打合せを行った。事後は，体験活動を振り返り感謝の気持ちを込めてお礼の手紙を書いて届けた。

#### ④ ワールドキャラバン

国際交流協会からスリランカ，ガーナの方をゲストティーチャーに迎えて，生活習慣の話を聞いた。また，スリランカのカレー作り体験やガーナの打楽器合奏体験を行った。事前の調べ学習，本時の活動，事後のまとめ等をポートフォリオにして評価に生かした。

#### ⑤ 福祉体験

実際に、耳に障害のある方を講師に迎えて、手話体験を実施した。障害のある方の立場から見た世界や考え方を手話で聞いた。あいさつや歌など、簡単な手話を覚えた。

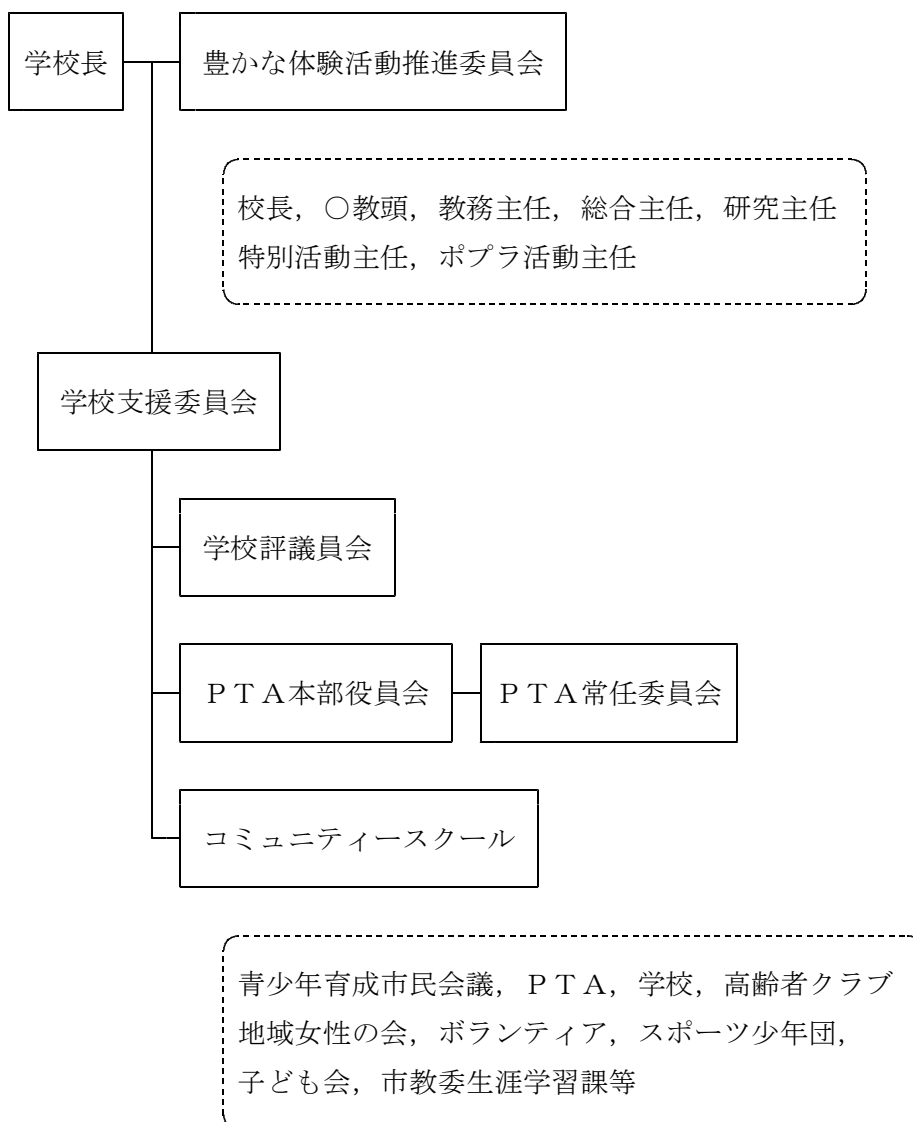
### (3) 成果等

- ① 田植えや稲刈り等を初めて体験した児童が多く、米作りの大変さを実感できた。実際に米作りをしている地域の方とのふれあいを通して、生き方や願いを知ることができた。
- ② 障害のある方の明るく生き生きしている姿を目の当たりにした児童は、障害者への偏見や差別意識が全く感じられなかった。人権教育の一環にもなり有意義であった。
- ③ 外国の方の話を聞いて、生活習慣の大きな違いに驚かされた。一緒に活動することで異国文化のすばらしさを実感できた。この体験を通して、日本文化のよさを改めて理解できた。
- ④ 登山を通して身近にある自然の雄大さに気付いたり、助け合うことの大切さを実感していた。友達や地域の方とのふれあいを深められた。

## 2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

### (1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

<学校の推進体制>



学校支援委員会の開催（年1回）

本事業の趣旨説明，活動報告・反省，次年度の計画，情報交換

(2) 成果等

- 教頭が校内のコーディネーターとして，該当学年主任や行事担当主任等と適時に連絡・調整をしたり，指導助言を行ったりしたことは効果的であった。
- 地域コミュニティースクールとの連携事業の形態をとったことにより，様々な地域の方の支援や協力を得ることができた。

3 今後の課題と改善点

- 様々な体験活動を通して，豊かな人間性や社会性の育成など心の教育の充実を図る。
- 地域の教育力を積極的に生かした学校づくりに努める。その際，ゲストティーチャーや学校ボランティア等の事前の打ち合わせを十分行うことで，体験活動の一層の充実を図る。
- コミュニティースクールとの連携事業である加波山登山については，コース設定に変化をもたせたり，清掃登山にするなど内容の一層の充実を図る。地域の高齢者クラブや女性の会，子ども会育成会，地域の方々等とのふれあい活動を一層強化する。
- 体験活動を実施・評価しながら，年間計画にゲストティーチャーを位置付けたり，実施時間や時期に検討を加えたりするなどの見直しを図り，実情に即した年間計画に改善する。
- 豊かな体験活動推進委員会や学校支援委員会を定期的で開催したり，構成員数を見直したりして組織の活性化を図る。
- 学校評価アンケートの質問項目に本事業を加えて事業評価し改善に生かす。研究の成果や課題等について，学校だよりやホームページ等を利用して地域へ情報を発信する。